

東京大学大学院新領域創成科学研究科
環境システム学専攻 環境健康システム学分野研究室

わたしたちの身近な生活環境と健康の関係を解き明かす

環境健康システム学分野研究室には現在准教授1名、秘書1名、技術補佐員1名に加え、博士課程の学生が4名、修士課程4名、学部4年生1名の総勢12名が在籍しています。研究室にはバラエティーに富んだ人たちが集まっていますが、みんな仲が良く、アットホームな雰囲気の研究室です。

私たちの研究室では化学物質のヒト健康影響について、「小児」「妊婦」「重金属」「環境ホルモン」「生殖影響」「発達」などをキーワードとして、実際のヒト集団を対象にして調査研究を進めています。こうした研究では、対象とする化学物質にどれだけ曝露しているかを定量的に知ることが必須になります。そのために、食物や土壌、大気、飲料水など、われわれの身近にある環境媒体に含まれる化学物質の濃度を測定しています。もちろん室内環境もわれわれの最も身近な環境であり、これまでわが国においても室内空気質に関する多くの研究がおこなわれてきたところですが、われわれが目目しているのは室内空気ではなくハウスダストです。

わが国においては最近まで化学物質の曝露源という観点からハウスダストをみた研究はほとんどありませんでした。われわれの研究室ではハウスダストに含まれる化学物質濃度の測定をはじめとして、ハウスダストに含まれる化学物質のヒト健康リスクを推定したり、ハウスダストがなぜ化学物質で汚染されるかなどについて調べたりしてきています。その結果、鉛やフタル酸エステルなど、ヒトの曝露にハウスダストが大きな寄与をしようる化学物質をいくつか見出し、また国立環境研究所との共同研究によって、室内で使用されている塗料や塩ビ製品などがハウスダストの鉛汚染源として疑われる例を見出しています。こうした研究によって、ハウスダスト中の有害化学物質存在量を減らし、健康リスクを低減化して、よりよい生活環境を創造することを目標に日夜研究を進めています。(博士課程1年 小栗朋子)



Fig. GC-MS測定

ハウスダスト研究



掃除機ごみを用いた小児の曝露調査

